

高潮・高波の観測、実験、追算に関する特別セミナー

主 催 : 京大防災研究所沿岸災害研究分野
(財)沿岸技術研究センター

場 所 : 京都大学防災研究所 所長室 E-320D(E棟3階)

日 時 : 平成21年12月22日(火) 14:00~17:00

プログラム

1. 14:00-15:00

講演題目: Extreme wave impinging and overtopping during hurricane event

講演者: Kuang-An Chang
(Visiting Professor of Kyoto University, Texas A&M University)

ハリケーンによる極端波をスケールダウンして、実験室にて、巻波砕波が壁に衝突する様子を可視化によって調べた。この研究により、光学的画像計測法を開発して、構造物近傍の流速場および空隙率を計測できるようにした。

2. 15:00-16:00

講演題目: Observations of waves, surge and damage during Hurricane Ike

講演者: Andrew Kennedy
(University of Notre Dame)

講演内容: ハリケーン・アイクはテキサスのガルベストンに上陸し、5m近い高潮をもたらした。8本の波高計アレイと潮位計から得られたデータを解析し、特に、15時間前から2.2mに達した前駆波を調べた。高潮の後、被害調査を行い、建物の床高さが0.5m 異なるだけで、被害が非常に異なることがわかった。

3. 16:00-16:30

講演題目: Wave hindcasts due to Hurricane Katrina and Ike

講演者: Hajime Mase
(DPRI, Kyoto University)

講演内容: ハリケーン・カトリーナとアイクによる高波の追算を行った。入力の風データとして幾つかの気象データを用いた。追算結果と観測結果を比較すると、概して良い一致が得られた。しかし、カトリーナとアイクでは、風のピークと波のピークの出現時間に相違があり、ハリケーンの特性によることが推察された。